

大谷小学校保護者 小泉 守



赤と黒と茶色だけの広島市。血の赤、黒い雨、廃墟と化した地面の色。被爆体験者の見た爆心地は三色だけの世界。惨状の再現絵を混じえながら実体験のお話を聴く。自分で見た世界のよう映り、恐怖を感じた。式典会場近くに降りると反対運動団の大音量演説、見張るたくさんの警察官。会場まで数百メートルの道脇には式次第・冷凍おしぼり・献花用の花を配るボランティアの大勢の方々、テレビには映らず知り得ない大切な役割を知る。安倍総理のあいさつを生で聴く臨場感。参列してこそ分かる数々の事。貴重な機会を頂き感謝申し上げます。

大谷小学校6年 小泉 蓮花



資料館では、原爆の悲劇を多くの写真や絵、実物が教えてくれました。一発の原爆で、一瞬にして街が廃墟と化し、たくさんの命が奪われたことを知り、改めて核兵器は、あってはならない物だと思いました。また、体験講話を聞き、人の命の重みを感じました。そして、核兵器があると人類が滅亡してしまうのではないかと考えるようになりました。同じ過ちをくり返さないために、原爆被害の恐ろしさを決して忘れてはならないと強く思いました。広島での貴重な体験を通して学んだことを、一人でも多くの人に伝えていきたいと思います。

木原小学校6年 鈴木 洸匡

広島に原爆が投下されたのは8月6日8時15分です。この日から人々の苦しみが始まったのです。被爆者で語りべのお婆さんから当時の様子を聞くことができました。アメリカが原爆を落とした理由は戦争を早く終わらせるためだった。でも、このために多くの人々が亡くなり、町が壊滅状態になり、白血病や、放射線を浴びたため、多くの人が病気になり、言葉では言い表せないほどの、生き地獄だったそうです。食べ物がなく、水は飲めず、苦しんだ人は、数しれないそうです。核は絶対使わない。持っている国の人も、絶対に使ってはいけない。



木原小学校保護者 鈴木 浩之

核兵器は絶対に使ってはいけないうちの子供のころから当たり前で教えられてきました。今回、広島平和記念式典派遣事業に参加し、その中の被爆体験講話では被爆者が体験した核兵器の恐ろしさを生の声で聞くことができました。たった一発の原爆が直後の壮絶な状況は勿論、73年経っても尚、差別や子孫への遺伝の不安など現在も多くの人たちが苦しんでいる事実は、当たり前で教わってきた核廃絶の重要性を大いに感じました。思い出したくない歴史を敢えて口に出し、核廃絶の訴えを我々が未来の人々に語り継がなければならないと感じました。

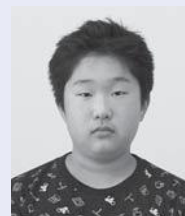


大谷小学校保護者 鈴木 希美枝



被爆体験者の梶本さんの講話を聞いて思った事は、すべて人だということです。戦争を起こし、原爆を落とし、今も核爆弾を保有する。原爆を落とされ、地獄の中を友人と励まし合い助かり、教師の夢を諦め、弟達のために貧困や差別と戦い、子孫を残した今も原爆の後遺症に不安を抱きながらも、過ちを繰り返さないために語り継いでいる。辛い経験をして人も人を憎まず、優しい心と思いやりで、争うことなく、命を大切にしたいという言葉に心を刻みました。貴重な体験の機会を親子で頂きありがとうございました。

大谷小学校6年 鈴木 巧人



73年前の8月6日、広島に一つの爆弾が投下された。その爆弾は上空600メートルで爆発し、一瞬にして半径2キロメートルの建物を全壊・全焼させ、死者数万人という甚大な被害をもたらした。なぜ原爆は広島に投下されたのか、それは早く戦争を終わらせることと、まだ出来たばかりの原爆の威力を正確に測定するためでもあった。現在も世界には約1万5千発もの核弾頭が保有されている。戦後73年経った今、求められているのは核廃絶はもちろん、広島・長崎で起こった事を正確に後世に伝えていくことなのではないだろうか。

核兵器なき世界の実現に向けて 語り継ごう平和の尊さを

～広島平和記念式典に参列

広島・長崎に原爆が投下されて73年。広島平和記念公園には様々な年齢・国籍の方々を訪れ、平和への祈りを捧げました。被爆者の方たちの高齢化により、戦争体験者の生の声を聴く機会は、今後ますます少なくなっていくことでしょう。これからは戦争を知らない世代が学び、考え、次の世代に語り継いでいかなければなりません。村では、昭和63年に「非核平和美浦村宣言」を行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代へ語り継ぐための活動を続けています。今年もその一環として、小学生親子3組と非核平和美浦村宣言推進協議会代表、村議会議員代表、教職員代表等の計11名が、大谷小・木原小・安中小および美浦中学校の児童生徒が平和への願いを込めて折った千羽鶴を奉納するとともに、広島市の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(平和記念式典)に参列しました。

ここでは、参加者が広島派遣を通して感じた、平和への思いを語って頂きました。 《敬称略》

美浦村議会議員 竹部 澄雄



被爆地広島は原爆投下から73年の「原爆の日」を迎えあの日と同じ様に真夏の太陽が照りつける中で広島平和記念式典が行われました。研修では被爆体験講話を聞き原爆の悲惨さを痛感し被爆後の苦しみは生き延びた被爆者の心身を今も蝕み続け今なお苦悩の根源になっていることを知り語り部の方々の訴えは核兵器の恐ろしさを熟知し核兵器を手にしたという誘惑を断ち切る為の警笛だと感じました。被爆者をはじめ放射線の影響により今も心身に苦しみを抱える多くの人々の苦悩に私たちは寄り添い原爆の悲惨さを後世に伝えなければならないと思いました。



原爆ドーム前にて

安中小学校校長 柴田 博行



人類史上最初の原子爆弾が広島に投下された73年前の夏と同じとても暑い一日でした。世界各国の要人を迎え、「原爆死没者慰霊式並びに平和記念式」が行われました。この式典に私も初めて参加し、平和記念資料館で見た悲惨な状況を思い浮かべ、原爆の犠牲者に祈りを捧げました。式典には多くの小中高生も参加していました。私たちがやらなければならないことは、原爆の恐ろしさを伝え、平和への思いを次の世代へ継承していくことだと改めて思いました。このような貴重な機会を与えていただいた事に深く感謝申し上げます。

美浦村女性行政推進協議会会長 小峯 久美子



伝承者になる～式典での子供代表の“平和への誓い”では「73年前の事実を、被爆者の思いを、私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になりたいです。」と結びました。そして被爆体験講話では、つらい体験を通して「命を大事にしてほしい」という強い気持ちが胸に響きました。高齢となった被爆体験者の思いを各地へ伝えていく伝承者を育てていることも知りました。今回の広島での体験を家族や身近な人たちに伝えていくことが大切だと気付きました。私たちも伝承者です。今後の活動の拡がりに期待します。



とうろう流し



被爆体験講話



式典参列



平和の鐘